

ワーキングプアを踏み台にする **「大阪版市場化テスト」**の正体をあばく

何となく聞こえはいいけど、実態は凶暴な公務切り捨ての手段です。欺されてはいけない。気がつけば格差は拡大し、ワーキングプアだらけになってしまう。そのカラクリにせまる！

「大阪版市場化テスト」とは？

「対象業務の詳細な情報を開示した上で、民間事業者から手法を含めた提案を公募し、学識経験者や弁護士等で構成する「大阪版市場化テスト監理委員会」での審議を経て民間開放等の方向性を決定。外部の視点（市場化）を反映して公共サービスの質の向上と効率化を実現します。」とありますが、公務の削減と廃止が目的です。

- 大阪府独自の方法で、ガイドラインに基づいておこなわれます。
平成16年から検討を始め、17年6月に策定。
- 業務の選定にかかわるもっとも重要な段階に議会が関与する余地がありません。
- ほとんどすべての事業が対象で、民間事業者から提案されたものを検討するというやり方です。

対象業務の選択方法は？

民間事業者から、提案を受け、それを「大阪版市場化テスト監理委員会」が協議して、市場化テストの対象業務を決めていきます。

- 「大阪版市場化テスト監理委員会」のメンバーは5名で構成され、弁護士や大学教授、財界人などで、公務を知っている人で構成されているわけではありません。
- 平成19年度に4つの業務が対象になっており、すでに職員研修業務が実施され、自動車税事務所の催告事務が実施に向け調整中です。
- 平成20年12月新たに9業務が対象になりました。府立図書館管理運営業務もその対象です。

個人情報の宝庫！

20年度に対象になった9業務

- ① 税務業務
- ② 府営水道管理運営業務
- ③ 府立図書館管理運営業務
- ④ 監査業務
- ⑤ 医薬品承認申請受付等業務
- ⑥ 居宅サービス事業者及び障がい福祉サービス事業者等指定申請受付等業務
- ⑦ 宅建業免許申請受付等業務
- ⑧ 府営住宅家賃催告・債権回収業務
- ⑨ 労働大学講座事業

血も涙もない厳しい取り立てか？！

民間事業者から提案があったものから、「大阪版市場化テスト監理委員会」が検討し、上記9業務を選定。これから具体的な作業が始まります。具体的なスケジュールとしては

- | | |
|-----------|---------------------|
| 平成21年1～3月 | 業務内容、人員、コスト等範囲の絞り込み |
| 平成21年4月 | 実施方針の策定 |
| 平成21年9月 | 官民比較審議、民間委託等方向性の決定 |

公務のうち、オイシイところだけ、民間事業者にとらせる仕組みです。



水道管理はリスクが大きいので、どこの自治体も手を出してないよ。

「大阪版市場化テスト監理委員会」とは？

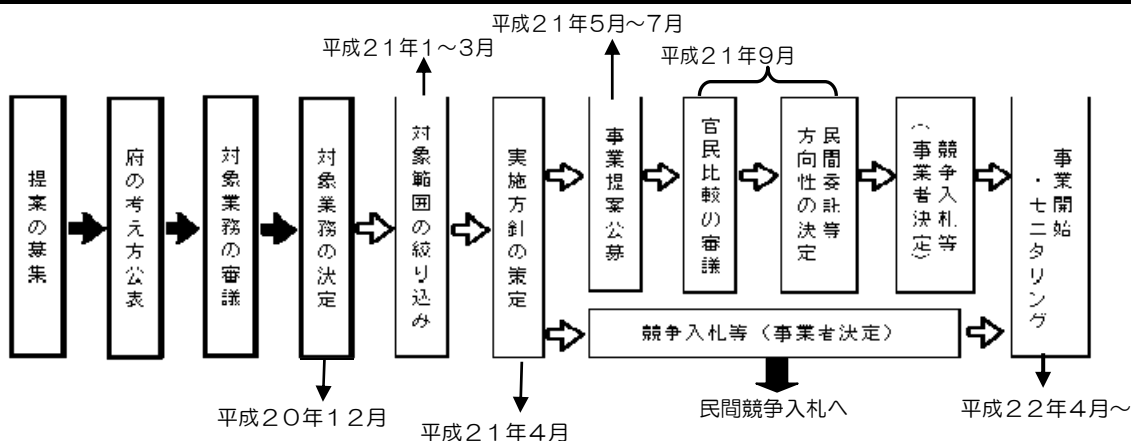
「大阪版市場化テストの実施プロセスの透明性を確保し、業務の適正かつ確実な実施を検証するとともに、制度充実に向けた提言等をおこなう第三者機関。」とありますが、実態はかなり不透明です。

- 権限が絶大で、だれも口出しできません。執行機関の意志や議会の関与が無視されます。また、あらゆるステージで登場してきます。
- 委員の選出が不透明です。単なる弁護士、学者、財界人ということだけでなく、市場化テストの推進派ばかりで固めていて、とても中立的とはいえません。また、その業務に精通しているかどうかは問題にされていません。

ここが問題！「大阪版市場化テスト」

- 条例など法的根拠がありません。ガイドラインに基づいて決定されます。
- 議会や住民の声が排除されるしくみです。監理委員会の決定が重視されます。
- 官製ワーキングプアを拡大再生産します。委託された職場で働く人たちは、アルバイトやパートなど非正規雇用が大半です。
- 自治体から仕事のノウハウが消えます。仕事の内容が分からないのに、監督ができるでしょうか？安全・安心が消失します。
- 民間主導では利益優先に走ります。公共性の視点が欠落、公平・公正が保たれません。

「大阪版市場化テスト」第二弾の今後の予定



※図は大阪府ホームページより抜粋。http://www.pref.osaka.jp/kikaku/sijohka/arata-ketei.htm [参照2009-2-5]

府立図書館業務についての監理委員会の審査結果

①提案の趣旨

本提案は、来館者の目線に配慮した総合案内の設置や開館時間・開館日数の増加など、民間の持つ創意工夫により「カウンター業務、レファレンス業務、資料収集業務等」の図書館業務を包括的に実施することにより、府民サービスの向上やコスト削減を目指すもの。

②担当部局の考え方

- ・「高度なレファレンス、相談業務、受け入れる本の選定、政策的な意思決定業務、他の図書館や本庁との調整業務等」については、外部化が困難な司書の基幹業務である。
- ・基幹業務について、司書が長期間業務に従事することによって得られた経験がサービス提供上重要である。これら基幹業務の外部化は、図書館におけるサービスレベルの低下を招く可能性が高い。
- ・現在、効率化等の観点から、司書の業務である「カウンターでの貸出・返却業務、書庫内資料管理業務、書庫出納業務など」は部分的に非常勤職員の活用や外部委託を実施している。

③審議結果

担当部局が主張する司書の基幹業務について、精査する必要がある。また、民間の司書資格を有する者の活用の可能性も検討する必要がある。

行政の司書がすべての業務をやらなければならないというわけではない。民間のアイデアをいれることで、府民の質的満足度に沿ったサービスの向上が見込まれる。

窓口における貸出業務や簡便なレファレンス、バックヤードの事務、整理作業など、現状でも非常勤職員を活用している業務及び司書の基幹業務を整理し、基幹業務以外の業務を併せて、包括的に民間に任せることで、接遇のレベルアップや対応時間の拡大、リードタイムなど組織的に質的向上を目指す余地がある。また、包括的に任せることで、人員の役割分担や配置について、より合理的かつ柔軟に実施できる可能性がある。

また、都道府県立と市町村立との差異もあるが、市町村立の図書館では、指定管理者制度を導入している事例も見受けられることから、差異の部分に修正を加えることで、都道府県立の図書館も民間開放の可能性を探ることができると考える。

よって、大阪版市場化テストの対象業務としては「適」とする。

<検討対象範囲>

基幹業務の範囲を整理の上、既に外部化している業務と併せて、検討対象範囲と想定される。ただし、詳細については業務分析と整理が必要である。

<課題・問題点>

- ・司書の処遇。

図書館民営化は問題だらけ

- ネットワークがぐめなくなります！
図書館は他の公共施設に比べ、ネットワークが大きな役割を果たしています。
- 手間のかかるサービスの切り捨て
コストに見合わなければ切り捨てられるか、有料になる可能性があります。
- サービスの向上は望めません。
契約期間は3～5年ぐらいで、長期的な視野にたった図書館運営や計画的にコレクションを構成することはできません。
- プライバシーへの配慮はどうなる？
図書館には、膨大な個人情報があります。
- 利潤追求の手段は人件費の削減
働いているのは非正規雇用の人たち。
- 公平・公正なサービスは期待できません。

「対応時間の拡大、リードタイムなど組織的に質的向上を目指す余地がある」とありますが、「接遇」については、府ホスピタリティ調査で、接遇は、民間をしのぐ水準にあることが客観的に示されています。「対応時間の拡大」については、来年度から大幅な開館日増をすでに決めています。「リードタイム」については、府立175万の蔵書から最適な資料を最速で利用者提供するためにはまさに職人技が必要であり、ノウハウのない民間事業者にはできません。監理委員会提言の「民営化による質的向上」の論理はすでに破綻しているということを感じておいてくださいね。



民間事業者4社（途中1社は辞退）の提案と担当課からの提案に対する考え方を受けて、監理委員会が下した結果は上の通りです。

審査結果は大阪府のホームページで公開しています。

http://www.pref.osaka.jp/kikaku/sijohka/arata-teigen.pdf [参照2009-2-5]

- 大阪版市場化テストの実施 http://www.pref.osaka.jp/kikaku/sijohka/jisshi.html [参照2009-2-5]
- 「大阪府市場化テストガイドライン」 http://www.esri.go.jp/jp/forum1/050728/panel-oh2.pdf [参照2009-2-5]
- 大阪版市場化テスト第2弾に対する府職労声明 http://fusyokuro.gr.jp/tomo/gogai/sijoka_seimei_090205.htm [参照2009-2-5]

破綻した市場主義 時代遅れの“民営化”

「市場化テスト」(官民競争入札)は、「官から民へ」という構造改革の流れの中で、国や地方自治体が行っている事業をなるべく民間に任せようという動きの中で出てきた手法のひとつです。

「民でできるものは民へ」の基本姿勢の具体化と公共サービスの質の維持向上・経費節減等を図るという目的で、官の世界に競争原理を導入し、官における仕事の流れや公共サービス提供のあり方を変える取り組みをといわれていますが、実態はすべて派遣労働、下請けです。派遣労働のうまみは何と言っても首切りが簡単だということ一。

儲かるときは民営化 損したときは国営化

市場化テストの目的は 公務の解体・消滅

これまで官が提供してきたサービスについて、民間にも参入を許すとともに、従来のサービスの担い手である官にも提案させ、サービスの質とコストの両面から比較し、より優れたサービスを提案した者がその公共サービスを提供することを目的としたと言っていますが、実際は公務の解体とコスト削減だけが目的です。法律そのものも財界の強力な意向を受け、民間事業者の都合の良いように作られています。

ここが問題！市場化テスト

● 公務・公共サービスを民間に丸投げ

「業務委託」のように切り売りせず、丸ごとそのまま、何でもやらせます。ほとんどすべての業務におよび、際限なく広がっていく可能性があります。

● 財界・民間企業等からの要求はあげつない。

一 不公平な仕組み一

一 公務部門の情報開示を徹底することを要求
企業が有利に競争入札に応じることができるようにするためです。

二 徹底して、民間企業の意見のみを偏重する仕組み。

● 強力で不公正な「合議制の機関」

徹頭徹尾監視し、ここを通らぬには何もできない仕組みになっています。

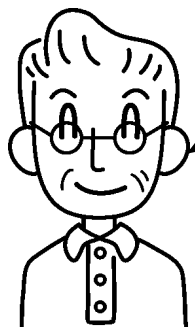
● 自治体に事実上の強制

自治体が市場化テストをする・しないは、原則自治体が自分で決められますが、「基本理念」を尊重する責務が課され、これを尊重したら市場化テストに流れていく可能性が大いにあり、危険です。

● ワーキングプアが増大します。

民営化と言っても実態は派遣労働。偽装官製ワーキングプアと言っても過言ではありません。

「小さな政府」の目的は、企業や高額所得者の租税負担を減らすために、巨額の支出を伴う社会保障サービスを削り込むことにあります。「市場化テスト」もそういう流れの中から生まれてきました。行き過ぎた構造改革の破綻は誰の目にも明らかなのに…



民間事業者になると、若い女性が多くて明るくなった…とよく言われる。それは待遇が悪くて勤められないということ。言い換えれば若年労働者の使い捨て職場ということだ。いくら仕事が好きでも未来に期待が持てない絶望職場ということだよ。

参考：「本当はこわ〜い市場化テスト」
(図書館問題研究会大阪支部発行)

「本当はこわ〜い市場化テスト」

図書館問題研究会大阪支部 発行
頒布価格 200円

「市場化テスト」の目的とは？委託、PFI、指定管理者制度と構造改革の流れの中で生まれてきた新たな脅威。強引な手法で、あなたの図書館も狙われる。市場化テストの概要とその背景をコンパクトにまとめています。

《問い合わせ》
os-tmk@shisho.jp



パシリ オカン アニキ

見えないところで黙々と府民の暮らしをまもっています。

便利で重宝で頼りがいのある図書館

「市場化テスト」の対象施設として、府立図書館があげられてしまった。同図書館ではすでに書庫出納などを委託するなどアウトソーシングをおこなっている。今回の決定でレファレンスや市町村支援など範囲が基幹業務に及ぶことが懸念されている。府立図書館百有余年の歴史に幕が閉じられるのか？

今世紀最大の愚行 被害甚大。全国から非難の嵐が。 府立図書館 まるごと民営化か！

中小企業の救世主 オッチャンたちの強い味方！

中之島ビジネス支援

商用データベースと 熟知した職員

- 大阪で生き抜くための商売の知恵がここにあります。
- 店舗経営から法律知識…欲しい情報を徹底的に調査します。
- その技術は職人芸。
- コンテンツもさらに充実！必見！ビジネス支援のページ

死にたくなったら図書館へ 何かあったらすぐ来てや！

生涯学習時代の大型図書館

赤ちゃんから ビジネスマンまで

- 水・ガス・電気・図書館！図書館はあなたのライフライン。
- マジメに生きている庶民の身方！
- 約175万冊の資料を駆使し、情報にたどりつくまで徹底サポート。
- 最先端をいく視覚障害者サービス。
- 視点がオモロイ多彩なイベント

マッチャ便利！ 市町村の図書館まで 週1回無料で資料を配送

府立図書館は、市町村の図書館や公民館図書室の窓口を通して、届けられています。豊富な資料は市町村の図書館にとって強い味方です。民営化で最も懸念されるのが、この機能。府民全体に影響がおよびます。

- 努力して築き上げたネットワークが分断されます。
- 有料化になれば利用できない人が生まれてきます。

年間約六万五千冊の資料が市町村の図書館を通して利用されています。 ※平成20年1月～20年12月実績

ほんとにスゴイ！ 豊富な資料と経験豊富な司書が あなたの疑問に答えます！

府立のスゴサは、レファレンスの力！市町村の図書館からも、手に負えないレファレンスを引き受け、即刻解決！府民の強い味方です。その技術は不断的努力と長年の経験で生み出された司書力です。熟練した“職人”は府民の宝。

- レファレンス1日200件！パワーが違います。
- 資料を使いこなせなければ、宝の持ち腐れです。

時給880円ではノウハウが蓄積されません。 ※民営化されるとほとんどパート職員で運営されています。

“民営化”されると... お金いるの？

有料化の道を開きます

市場化テストを生んだイギリスでは多くのサービスが有料になりました。国が見本にしたのはイギリス型です。

保証付き。民は絶対やる気なし こんなんアリ？

市町村支援が後退し 情報格差が生じます

急激に変化する情報化社会では、司書の研修は急務。情報の仲介役がなくなれば情報格差の拡大が懸念されます。

子どもが笑う大阪～ 喰ろてなしやあない...

情報弱者は切り捨てへ

子どもや障がい者などコストがかかり、豊富な経験を要するサービスは切り捨てられるか、確実に後退します。

何度もくりかえされるあやまち... 子どもにもプライバシーあるんやでえ。

プライバシーが心配

プライバシーや読書の自由は基本。だれにでも求める資料を提供することは、図書館の基本中の基本です。

ここが変だよ！「市場化テスト」

- 大阪府が進める「市場化テスト」は府立図書館の仕事を民営化していくものです。そして、大阪府立図書館の民営化に向けた検討が、府民の意見を聞くこともなくどんどん進められています。
- 民営化による弊害は各地で頻発し、国も認めています。このまま構造改革路線を暴走し続けることは、再生なき破壊にすぎません。
- 市場化テストに出す業務を決めている「大阪版市場化テスト監理委員会」のメンバーに図書館業務に精通している人は誰もいません。
- 本当の目的は、効率化でもサービス向上でもなく、公務の切り捨てです。高度で手間のかかるサービスほど切り捨てられる可能性があります。

府立図書館を育てたのは府民

大阪府立図書館は1904年から府民と図書館員が努力して育てた、大阪の未来へつながる共有資産です。そして府民を守る「知の最後の砦」です。

発行：図書館問題研究会大阪支部 連絡：os-tmk@shisho.jp